

○南筑後普及センター管内では、生産者の**高齢化**、年数経過に伴う**収量低下、生産者数、面積の伸び悩み**が課題。

○このため普及センターでは、**若い新規生産者の確保・育成、個別生産者の規模拡大、長期生産技術の確立による経営安定**を目指し活動。

○その結果、**新規就農者の増加**や**規模拡大**により、平成21年からの6年間で栽培面積は約10ha増加し、平成26年32.6haとなり、**南筑後地域を代表する基幹品目となった**。

具体的な成果

1. 新規生産者の増加と産地規模の拡大

○生産者戸数が平成22～26年の5年間で**41戸増加**（半数は新規農業者）

○平成21年から平成26年にかけて

面積：**1.4倍**

(H26:32.6ha)

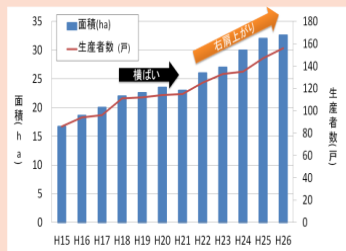
販売金額：**1.6倍**

(H26:8億9,500万円)

○平成22～26年の

5年間で**32戸が**

規模拡大



2. 産地構造の変化

○アスパラガスが経営の**基幹品目**に

○40歳代以下の若い生産者が**倍増**

○女性経営主**19名**が活躍

○新規就農から雇用型経営へ移行し、地域のモデルとなっているケースも出現

3. 新規生産者の早期技術習得

○平成22年以降の新規生産者の半数以上が就農から3年以内に**目標単収3t/10aを達成**



若い新規就農者



営農基礎講座

4. 長期安定生産技術の普及

○単収3t/10a以上の生産者の割合

平成21年

平成26年

30%

41%

○県全体研修会で**技術を普及**

普及指導員の活動

平成22年～

・「面積30a、単収3t/10a、所得300万円」の**経営モデル**を作成

・雇用型経営研修会を毎年開催

・高収量者の栽培管理技術の解析
かん水と施肥を**数値化**（見える化）

平成24年～

・**新規就農サポートチーム**の立上げ
市町、JAと連携

・生産部会による支援体制づくり
「**トレーナー制度**」を設立

平成25年～

・**営農基礎講座**の開催（年4回）

営農基礎講座のカリキュラム

	第1回	第2回	第3回	第4回
講義	アスパラガスの生理生態	土壌肥料	農業適正使用 病害虫対策	経営管理
	時期別の栽培管理			
現地	ほ場巡回、優良ほ場の視察			

・**改植実証ほ**の設置

・**補植技術**の確立

普及指導員だからできたこと

産地を支援する関係機関と連携・協力するなど**コーディネート機能**を発揮し、地域一体となった支援を実施。

高収量者の栽培管理技術の解析や、補植および改植技術を実証するなど**技術を数値化して産地を誘導**

長期に発展し続けるアスパラガス産地の育成

活動期間：平成 22 年～ 27 年

1. 取組の背景

福岡県南筑後地域では平成 4 年からアスパラガス導入が始まり、産地規模が徐々に拡大した。しかし、生産者の高齢化が進み、平成 18 年以降生産者数・面積は横ばいとなった。また、作付けから年数が経過したほ場では収量の低下が見られるようになった。このため、普及指導センターは長期に発展し続けるアスパラガス産地の育成を目指して活動を行うことにした。

2. 活動内容（詳細）

（1）関係機関と目指すべき方向を共有化

平成 21 年に管内の 3JA、5 市町で構成する「南筑後地域営農推進協議会」に、長期に発展できるアスパラガス産地の育成方針を提案し、目標達成のための推進方向の共有化を図った。その後、推進方向毎に具体的な活動内容を検討、ロードマップを作成し、生産部会と連携して課題解決に取り組むこととした。

（2）若い新規生産者の確保・育成

ア 経営モデルの作成

平成 22 年にアスパラガスを基幹作物として最低 300 万円以上の農業所得を確保するため、「経営面積 30a、収量 3t/10a」の経営モデルを作成し、栽培希望者に対して説明会や相談会を開催した。

イ 新規就農支援サポートチームの立ち上げ

平成 24 年に、市町、JA、農業委員会、普及指導センター、生産部会で構成する「新規就農支援サポートチーム」の立ち上げを提案した（表）。翌年には全市町毎にサポートチームが設置され、毎月相談会を開催し、農地面、資金面、技術面の相談に対応した。

ウ 早期技術習得による経営定着

平成 23 年から収量 3t/10a の早期達成を目指して、作付け 1 年目の新規生産者を対象に、年 4 回の基礎講座を実施している。

また平成 25 年、経験豊富な部会員が新規生産者の技術習得や人間関係づくりを支援する「トレーナー制度」を立ち上げた。

表 新規就農支援サポートチームの体制と役割分担

		新規就農支援サポートチーム			
		普及センター	市町	JA	生産部会
就農までの課題解決支援	就農相談会の開催	○	◎	○	
	就農計画の作成支援	◎		○	
	農地やハウスの紹介		◎	◎	○
	補助事業や資金の活用		○	◎	
	研修先の紹介	○		◎	○
就農後の早期技術習得	技術・経営指導	◎		○	○
	営農基礎講座	◎		○	
	重点巡回指導	◎		◎	○
	トレーナー制度	○	◎	○	◎

（3）個別生産者の規模拡大支援

全生産者を対象に、今後の経営に関する意向の面談調査を行い、この中で規模拡大を志向し、収量 3t/10a を超えている生産者に対して、経営コンサルティングを実施し、規模拡大シミュレーションを作成することにより改善提案を行っている。

また、規模拡大に伴い雇用導入が必要となることを見据え、「雇用型経営研修会」を毎年開催している。

(4) 収量向上技術と長期安定生産技術の確立

ア 高収量生産者の管理技術の見える化

収量向上対策として高収量者の栽培管理技術の解析を行い、高収量者の管理をpF値、EC値を用いて数値化し、栽培管理技術の高位平準化を図った。

イ 改植・補植技術の確立

連作で収量が徐々に低下し、所得が得られないレベルの圃場については、平成25年から湛水と太陽熱消毒を組み合わせた改植技術の実証に取組み、作付け1年目の改植株が通常の新植株と遜色無い生育を示すことを実証した

また、欠株の多い圃場については、大苗の利用と土壤除去を組み合わせた「アスパラガス補植マニュアル」を作成して生産者に配布し、補植技術の普及を図った(図)。



4. 農家等からの評価・コメント（〇町Ⅰ氏）

我がアスパラガス部会でも若手の生産者が増え、既存生産者の規模拡大が進むなど、産地拡大に力を入れているので、今後も支援をお願いしたい。

特に、新規生産者は、アスパラガスに関する基礎的な知識が少ないため、失敗しないように気を配った指導をお願いする。

5. 普及指導員のコメント

普及指導センターが生産部会、J A及び市町と課題を共有して活動したことが成果につながった。現場での技術的な課題は、まだ多く、今後も生産者の技術向上に取り組む。また、産地が長期に発展するには、アスパラガスだけで十分な所得を得る農家を育成することが必要であり、1農家当たりの生産量（額）拡大が大きな課題である。

6. 現状・今後の展開等

南筑後地域のアスパラガス生産は関係機関による新規生産者確保・育成の取組に加え、生産者自らが自信を持って周囲の就農希望者に勧めることで、さらに、新規生産者が増加するという好循環が生まれている。

普及指導センターは、将来に亘ってアスパラガス産地を発展させるため、今後も関係機関と連携し、若い生産者を部会、ひいては地域農業のリーダーとして育成していきたい。